



豊田敬教授 近影

# 豊田敬教授退職記念号によせて

2018年3月、29年もの長いあいだ本学経営学部で教鞭をとってこられた豊田敬教授が定年退職のその日を迎えられました。この間の有り余る、先生の教育研究及び本学学部への貢献の大きさに敬意を表し、『経営志林』の本号を豊田敬教授退職記念号として刊行することと致しました。

豊田先生は1948年1月に生まれ、神奈川の伝統校湘南高校を卒業後、現役で東京大学文科Ⅱ類に入学、その経済学部経済学科へと進み、同卒業後もそのまま東京大学大学院経済学研究科理論経済学専攻の修士課程へ進学、以降長らく、経済統計を専門とする研究者としてキャリアを積み重ねてこられました。東京大学大学院の同専攻博士課程を終えた直後の1976年4月、福島大学経済学部の講師に採用、同年のうちに助教授へと昇進され教育者としてのスタートを切り、1982年から1989年までの東京経済大学経済学部助教授を経て1989年4月、法政大学経営学部にて教授として着任、その後はずっとこの3月まで、本学部の「統計学」を担当してこられました。先生による学部2年次からの専門基礎科目「基礎統計学」、そして3年次からの専門科目「統計学」は、われわれが行う経営学教育の根幹をなす授業で、数多くの学生が先生の薫陶を受け、現在に至っています。そして、研究者としての先生がこの間、多数の研究業績を残してきたことも触れておかなければなりません。『経済統計入門』（東京大学出版会）のような教科書から、経済政策研究に不可欠な「ジニ係数」「ローレンツ曲線」に関するご専門の分野の研究論文まで、先生の業績書には夥しい数の研究業績が並んでいます。

他方また、豊田先生は、本学の学内行政や公益的な社会活動においても教育・研究面同様、多大な貢献をされてこられました。1991年から1992年の本学日本統計学研究所長、2000年から2002年の本学経営学部長、2003年から2005年の本学大学院委員会議長、1990年から1992年の日本統計学会理事、2001年から2007年の神奈川県統計報告調整審議会会長、などです。

以上のように豊田先生は多年にわたって法政大学に奉職、教育・研究及び組織・社会活動に尽力され、本学及びわれわれ経営学部の発展にかけがえのない貢献をなされました。ご退職後は何卒健康に留意されるとともに、お時間のあるときには遠慮なくわれわれの職場へお運び頂き、先生より大所高所からのご助言を賜る機会を楽しみにしております。これまでのご貢献やご指導に深く感謝しつつ、退職記念号刊行の辞とさせていただきます。

2018年4月

法政大学経営学部長

佐野 哲